

平成 29 年度第 8 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

- ◆日時 平成 30 年 2 月 13 日（火）19：00～20：40
- ◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4 階大会議室
- ◆出席委員
山本 誠委員、森 裕美委員、美濃 松謙委員、竜田 和代委員、池田ミチ子委員、
永井 正高委員、山本 康史委員、酒徳 雅明委員、岩崎 良文委員、西村 純一委員、
新田 均委員、重松 玲委員
- ◆欠席委員
西村 幸泰委員、浅野 聡委員、三村 和也委員
- ◆出席職員
情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課課長補佐、企画調整課主査】
環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事、環境課長、清掃課長】
教育委員会【教育事務部長、学校教育部長、教育総務課長、学校統合推進室長、
学校教育課長、学校教育課副参事、社会教育課長、スポーツ課長、
文化振興課長】
健康福祉部【健康福祉部長】
危機管理部【危機管理部長、危機管理課長】
消防本部【消防長、消防次長、総務課長、消防課長、予防課長】
産業観光部【産業観光部長、産業観光部理事、商工労政課長、同課副参事、
農林水産課長、農林水産課副参事、観光誘客課長、観光振興課長】
都市整備部【都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事、都市計画課長、
交通政策課長、基盤整備課長、維持課長、維持課副参事、用地課長、
建築住宅課副参事】
上下水道部【上下水道部長、上下水道部次長】
総務部【総務部参事】
- ◆内容
(1) 前回の振り返り
(2) 第 3 次総合計画 基本構想・前期基本計画（案）について

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

○第3次総合計画・前期基本計画（案）について

●分野別計画

第1章

- ・今回の案にて了承

第2章

- ・基本構想の内容を実現するために「教育」は何をするのかを改めて考えると、まだまだ合っていないと感じる。「伊勢人の心意気」、「神宮ゆかりの地」とあるように、もともと神宮の古い歴史があつて支えられてきたということであるが、「学校教育」にはそういったことができていない。郷土愛というものが含まれていない。全体的にもう少し基本構想を意識した内容になっていないと構想の実現は難しいと思う。
- ・教育振興基本計画を基にやってきたと思うが、この計画（14P）に「伊勢のために活躍したいという思いを抱くようになるため」とか、「地元で働くことの意義」、「伊勢のよさをどんどん伝えていく」とか「地域の一員として地域を担い発展させようとする態度を培っていく必要がある（20P）」とか、そういったことが書かれているが「学校教育」には出てこない。もう少しこの辺りを具体化してほしい。
- ・「文化」に関しても「神宮鎮座のまちとして～」とあるが、本当にこれが基本構想を実現するためのものなのかというのが少し疑問である。この部分だけ見るとそういうものかと思うが、大前提として、とにかく基本構想を実現するためのものであるということなので、もう一度再考いただきたい。第6章の「観光」では神宮を中心とした物語性などをまち全体で発掘し発信していくことがあがっているので基本構想に合っていると思う、教育に関してはそれが出てこない。
- ・学校教育の現場では、どこの教育でも共通して一般的にやらなければいけないことがあると思うが、総合計画に合わせて何を重点化するのが大切なので、一般的なことを網羅する必要はない。今論じられている「郷土教育」と「社会参画教育」は、既に教育振興計画にも書かれている。総合計画の基本構想に照らして、そこをもって強化してほしい。その強化が見える目標であり、成果指標であるべきだ。「郷土を愛する心」は「教育」分野全体で実現することになっているが、個別の節に入っていないために、「学校教育」の現況では、地域に関することがまったくない。また、児童数の減少に対しても、ただそれに合わせて環境を整えていくだけで、これに対抗して行こうという意思がまったくない。ただ減っていくのに合わせていくのが学校教育なのか。社会減を食い止める対抗策として、郷土教育が見える形で学校教育の目標をたてていただきたい。指標も端的に「伊勢が好きですか」とか、「伊勢のために尽したいですか」という成果指標であるべきだと思う。また「社会参画力の育成」が重点課題ではないが、総合計画からすれば重点課題である。このあたりが見えるように次回ご用意いただきたい。
- ・「文化」のところも総合計画からすれば、一般的な文化だけでなく、伊勢の文化が次の世代にどう継承されて行くかが課題なので、その課題に沿った「数値目標」「現況」

「課題」「方向性」「成果指標」が出てくる必要がある。

⇒再度検討したい。

第3章

- ・今回の案にて了承

第4章

- ・今までの意見が反映されていると思う。高齢者のところで介護サービスがあるが、今後、介護に携わる人が少なくなるので、サービスだけをよくするのではなく、携わる人についても成果指標に入れられるようであれば考慮していただきたい。
- ・その他は、今回の案にて了承

第5章

- ・79 ページの「さまざまな災害から市民を守る」の「災害」について、一般の人がイメージする災害は水害や地震の大規模災害で、消防・救急がいう災害（火災等）ではないと思うので、少しずれていると感じる。どちらかといえば、日常的な安心を守るための部分であるように思う。
- ・83 ページの重要課題の成果指標で「地域安全講習会及び青色防犯パトロールの実施回数」とあるが、これは講習会とパトロールの合算なのか。目的は同じではあるが、取組の毛色が違うので、指標を分けてもいいと思う。
- ・87 ページ「交通安全」の54A「選ばれるまちづくり」に向けた交通マナー向上の推進とあるが対象者は幼稚園、小学生、中学生、高齢者であるため、この方達の交通マナーがあがったとして選ばれるまちづくりになるのか。重点課題の指標として交通事故を減らすには加害者に対する啓発が大切と思う。加害者向けの指標にならないかと感じた。

⇒防犯に関する指標の項目を分ける部分は検討する。消防に関する内容も、重複して記載している部分は整理する。

第6章

- ・第1節「農林水産業」の現況の箇所では修正された「自然災害への備えの充実」という表現が分かりにくい。その他は問題ないと思う。
⇒表現については再考する。
- ・第3節「観光」の「4年間で取り組む課題」で、「新たな交流を生み出すための地域資源の発掘・発見」に「活用」を加えてはどうか。
⇒検討します。
- ・観光客が増えることがよいことなのか、例えば質に目を向けた観光はどうか、単価が高くなる、知的な人材が集まってくる等。実施計画のなかでターゲットに向けたもの

を考えてもらうとよいと思う

⇒観光振興基本計画では質に関することが記載している。確かに増えすぎると交通マヒもおこす。質も高めていきたい。

第7章

- ・「住環境」の重点課題の指標、地籍調査について「大きく貢献します」となっているが、成果指標の34.1%という数値についてもう少し頑張っていたらいいと思う。
- ・今回の案にて了承

第8章

- ・第8章への意見を受け、修正されていると思う。行政組織力のところで職員の意識を入れているが、これは総合計画を作るということ自体が職員の意識をあげることであると思う。今回のように連携して取り組むべき内容を各担当で協議して作成したと思われる、そのことで組織力が強化されたと思う。今後も総合計画をつくっただけでなく、その精神を持ち続けていってほしい。
- ・第1節「行財政運営」の現況に、総合計画はすべての市の運営の基準になるものであるということを確認する文言を入れてほしい。また4年間で取り組むべき課題「81D 総合計画に基づく効率的・効果的な行財政運営」、「81F シティプロモーションの推進」は重点課題に位置付けされるべきものと思う。
- ・どこかで、総合計画が職員、あるいは市民に知られていることを確認する指標が必要と感じる。市民に判断基準を持ってもらう意味でも、総合計画の周知徹底は重要である。
- ・公共施設マネジメントについて、各組織をまとめて良い結果をだしていただきたい。
- ・行政組織力について、職員がどんどん入れ替わることの良し悪しをどう評価していくか、一人の職員が長く担当して専門性を高める反面、替わっていかなければ新鮮な事業が行えない。その辺りをどうこれからやっていくか。防災の観点から言うと四日市などでは有能な方はほぼ10年やっている。そういう観点も検討いただければと思う。
⇒行政規模や自治体の事情によりかわるもので、本市にも長い職員もいる。高度で専門的なところは行政として取り組んでいかなければならない反面、職員数の問題もあるため、アドバイザー的な方にご意見をいただくなど、いろいろな観点から進め、対応させていただきたい。
- ・「第2節 行政組織力」の4年後の数値指標について、60%は低いのではないか。
⇒第1次計画の指標としてアンケートを取り進行管理をし、結果20%強から30%強で推移していた。他の自治体でも同じような数値であったため、現状を踏まえて現実的な目標値としている。

○次回について

- ・次回（第9回）審議会（2月23日）には今回の意見を踏まえた修正案を審議していただく予定です。